

中小企業景気動向調査

〔2015年10～12月期の景況/2016年1～3月期の予想〕

【調査要項】

実施期間：2015年11月20日～12月3日

調査対象：県内の当金庫のお取引先 998社（下記参照）

調査方法：郵送および面談による調査

分析方法：業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」（増加など）と答えた企業割合から「悪い」（減少など）と答えた企業割合を差し引いた値（DI:Diffusion Index）を中心に分析

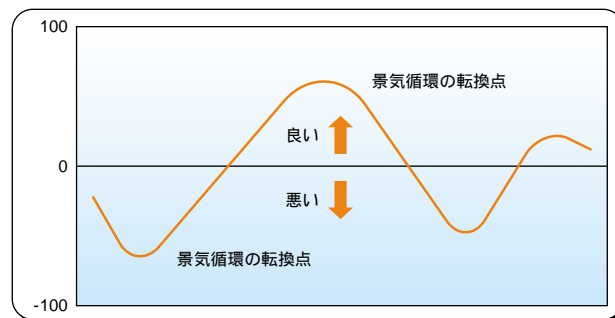
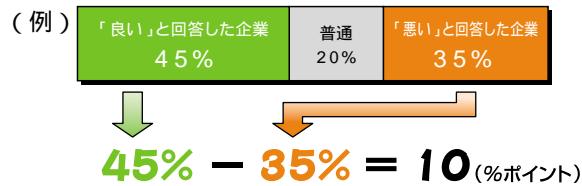
	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
調査先数	433	133	67	33	157	41	40	94	998
回答数	392	122	59	31	145	40	35	87	911
回答率（%）	90.5	91.7	88.1	93.9	92.4	97.6	87.5	92.6	91.3



DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査（3カ月前）からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



結果概要

10～12月期の景況

景況感2四半期連続の改善。7四半期ぶりにDIプラスへ。製造業 6.3ポイント改善。非製造業 4.9ポイント改善。

自動車部品製造業は新車販売が振るわず、5期連続の減収減益。機械器具部品製造業の増収増益に終止符。

サービス業のDI大幅改善、個人向けサービスが急回復。

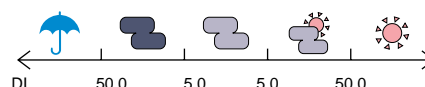
人手不足感 依然として収まらず、残業時間は増加。

1～3月期の予想

先行きに慎重、業況判断DIは再びマイナスへ。

幅広い業種で景況感悪化。自動車部品製造業と小売業は改善。

〔天気マークの見方〕



業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	7～9月期 (前回)	10～12月期 (今回)	1～3月期 (予想)	業種	7～9月期 (前回)	10～12月期 (今回)	1～3月期 (予想)
全産業	3.6	1.9	4.5	印刷	63.6	0.0	18.2
製造業	8.4	2.1	4.0	食料品	0.0	0.0	3.7
非製造業	0.0	4.9	5.0	卸売業	8.5	4.1	10.1
自動車部品	21.0	17.1	0.0	小売業	11.7	39.3	29.1
機械器具部	9.6	12.5	2.7	飲食業	12.9	9.7	16.7
金属製品	18.4	10.5	0.0	建設業	11.3	21.0	2.2
窯業・土石	29.4	12.5	31.2	不動産業	20.0	18.4	13.1
木材・木製品	50.0	33.3	33.3	運輸業	11.4	17.1	11.8
繊維製品	19.3	4.0	8.4	サービス業	8.2	15.1	4.7

業況判断

	7~9月期 (前回)	10~12月期 (今回)	1~3月期 (予想)	変化幅			
				前回	今回	今回	予想
全産業	3.6	1.9	4.5	5.5		-6.4	
製造業	8.4	2.1	4.0	6.3		-1.9	
非製造業	0.0	4.9	5.0	4.9		-9.9	

(単位：%ポイント　　はマイナス)

〔全産業〕

10～12月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）は1.9となり、7～9月期（マイナス3.6）にくらべ5.5ポイント改善した。改善は2四半期連続。

1～3月期の**予想業況判断DI**はマイナス4.5と、6.4ポイント悪化する見通し。

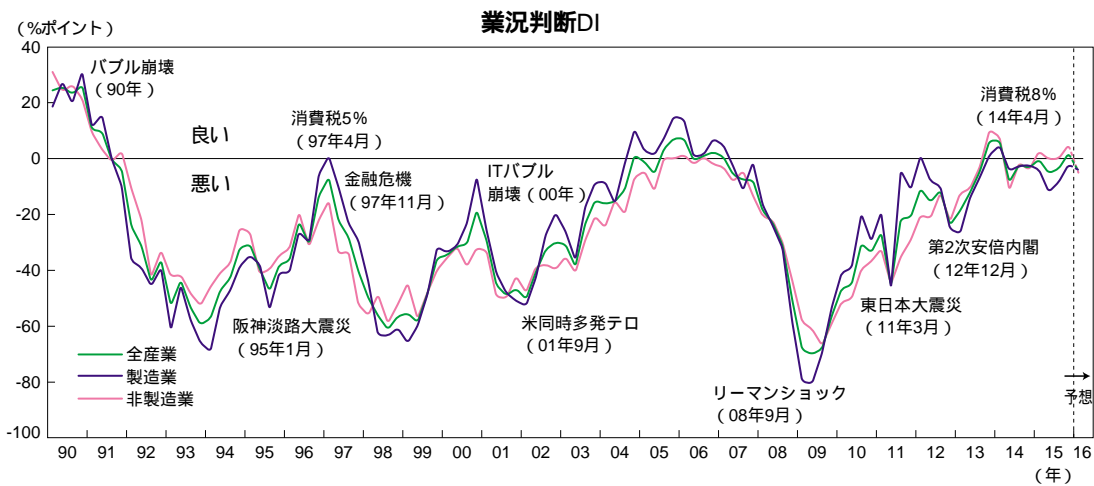
〔製造業〕

業況判断DIはマイナス2.1。7～9月期（マイナス8.4）にくらべ6.3ポイント改善。

- ・ DIが改善したのは、自動車部品、機械器具部品、窯業・土石、木材・木製品、繊維製品。悪化したのは金属製品。
- ・ 自動車部品は3四半期ぶりに改善。しかし、新車販売の不振で減収減益が続いている。新型車や人気車種の部品をあつかう企業には堅調なところも。
- ・ 機械器具部品は2年以上DIのプラスが続いており、業況は比較的堅調に推移している。

予想業況判断DIはマイナス4.0と、悪化の見通し。

- ・ 自動車部品は改善の予想。機械器具部品、金属製品、窯業・土石、繊維製品、食料品は悪化の予想。



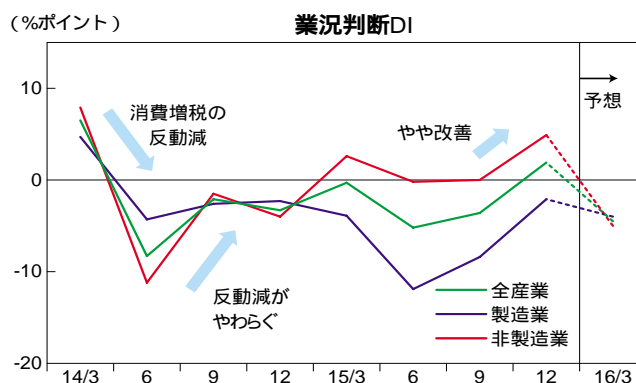
〔非製造業〕

業況判断DIは4.9。7～9月期（0.0）にくらべ4.9ポイント改善。

- ・ DIが改善したのは、卸売業、飲食業、建設業、運輸業、サービス業。悪化したのは、小売業と不動産業。
- ・ 卸売業は、建設材料卸と農畜産物・水産物卸が持ち直す一方、食料・飲料卸と機械器具卸は悪化した。
- ・ 小売業は4四半期ぶりに景況感が悪化。
- ・ 飲食業は5四半期連続の改善。業況は着実に回復しつつある。
- ・ 建設業は12四半期連続のDIプラス。公共工事を主体とする企業の景況感が回復、設備工事を主体とする企業も引き続き堅調に推移。杭打ちデータ改竄問題の余波を懸念する声もある。
- ・ 不動産業のDIは小幅悪化。物件の動きは地域によって温度差が生じている。
- ・ 運輸業は燃料価格の下落で持ち直しが続いているが、人手不足はなお深刻。
- ・ サービス業は、法人向け、個人向け、ともに景況感が改善。設備機械の設計や修理・メンテナンスなどが好調。

予想業況判断DIはマイナス5.0。悪化の見通し。

- ・ 改善の予想は小売業のみ。



10～12月期の業況		
	改善した業種	悪化した業種
製造業	自動車部品 機械器具部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品は変わらず	金属製品
非製造業	卸売業 飲食業 建設業 運輸業 サービス業	小売業 不動産業

1～3月期の予想		
	改善予想の業種	悪化予想の業種
製造業	自動車部品	機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品 印刷 食料品 木材・木製品は変わらず
非製造業	小売業	卸売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業

売上額・収益

〔全産業〕

前年同期比売上額判断DI（売上額が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は2.1〔増加〕。

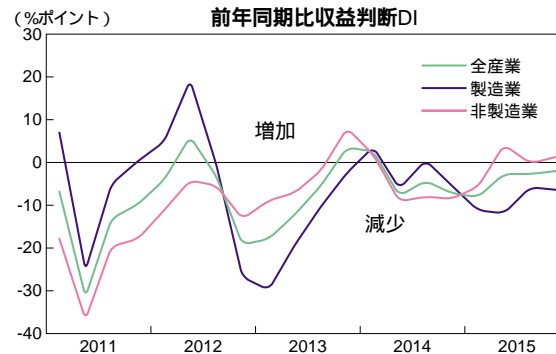
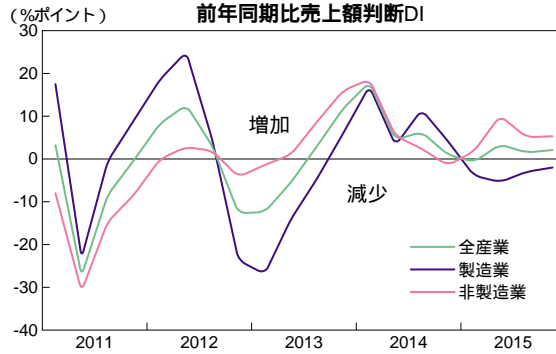
前年同期比収益判断DI（収益が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス2.0〔減少〕。

〔製造業〕

前年同期比売上額判断DIはマイナス2.0〔減少〕。

前年同期比収益判断DIはマイナス6.4〔減少〕。

- ・増収増益となったのは、金属製品と繊維製品。
- ・自動車部品は5四半期連続の減収減益。
- ・機械器具部品は収益が2年ぶりに減少に転じ、これまで続いてきた増収増益が途切れた。海外受注の減少が影響したとみられる。
- ・金属製品は鋼材や非鉄金属の価格下落で収益が上向いている。



		前年同期に比べた売上額	
		増加した業種	減少した業種
製造業		機械器具部品 金属製品 繊維製品 食料品	自動車部品 木材・木製品 印刷
		窯業・土石は変わらない	
非製造業		飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	卸売業 小売業

		前年同期に比べた収益	
		増加した業種	減少した業種
製造業		金属製品 繊維製品	自動車部品 機械器具部品 窯業・土石 木材・木製品 印刷 食料品
	非製造業	建設業 不動産業 運輸業 サービス業	卸売業 小売業 飲食業

〔非製造業〕

前年同期比売上額判断DIは5.3〔増加〕。

前年同期比収益判断DIは1.3〔増加〕。

・増収増益となったのは、建設業、不動産業、運輸業、サービス業。不動産業とサービス業は4四半期連続。

販売価格・仕入価格

〔全産業〕

販売価格判断DI（販売価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス0.1〔下落〕。

仕入価格判断DI（仕入価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は21.0〔上昇〕となった。

〔製造業〕

販売価格判断DIはマイナス7.7〔下落〕。

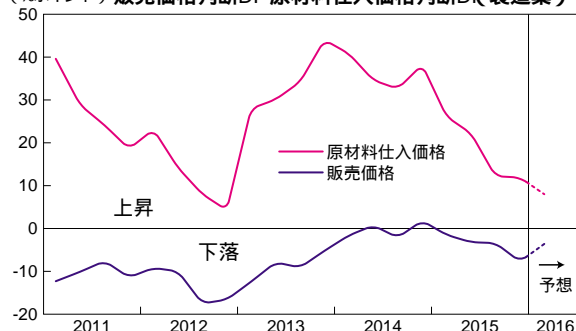
原材料仕入価格判断DIは11.9〔上昇〕。

〔非製造業〕

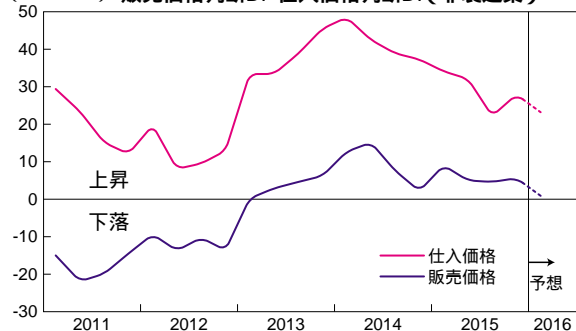
販売価格判断DIは5.6〔上昇〕。

仕入価格判断DIは27.9〔上昇〕。

(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



資金繰り

〔全産業〕

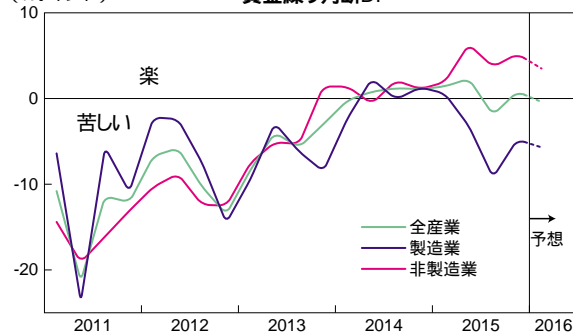
資金繰り判断DI（資金繰りが3カ月前とくらべ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）は0.8〔楽〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス0.4〔苦しい〕。

〔製造業〕

資金繰り判断DIはマイナス4.8〔苦し

(%ポイント) 資金繰り判断DI



い)。

予想資金繰り判断DIはマイナス5.7〔苦しい〕。

〔非製造業〕

資金繰り判断DIは5.2〔楽〕。

予想資金繰り判断DIは3.5〔楽〕。

雇用

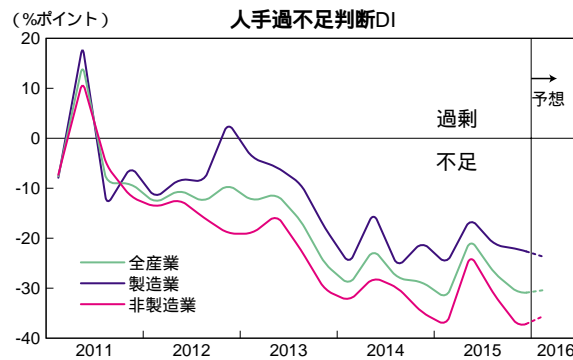
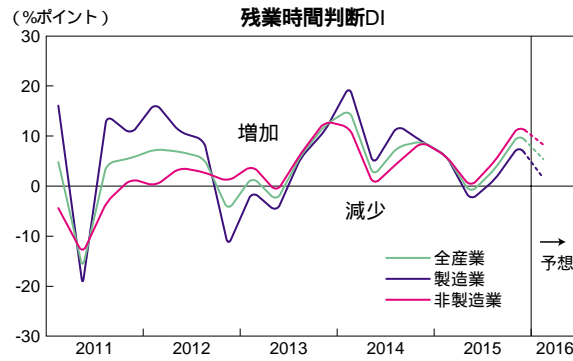
〔全産業〕

残業時間判断DI（残業時間が3カ月前とくらべ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は10.4〔増加〕。

予想残業時間判断DIは5.4〔増加〕。

人手過不足判断DI（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス31.1〔不足〕となり、人手不足感が広がっている。

予想人手過不足判断DIはマイナス30.4〔不足〕となっている。



		3カ月前と比べた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品 食料品	印刷	↓
	木材・木製品は変わらず		
非製造業	卸売業 飲食業 建設業 運輸業 サービス業	小売業 不動産業	↓

		人手過不足感	
		人手過剰の業種	人手不足の業種
製造業	↓	↓	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品
	↓	↓	卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業

〔製造業〕

残業時間判断DIは8.1〔増加〕。
 予想残業時間判断DIは1.6〔増加〕。
 人手過不足判断DIはマイナス22.2〔不足〕。
 予想人手過不足判断DIはマイナス23.7〔不足〕。

〔非製造業〕

残業時間判断DIは12.1〔増加〕。
 予想残業時間判断DIは8.3〔増加〕。
 人手過不足判断DIはマイナス37.8〔不足〕。1992年1～3月期以来の不足幅。
 予想人手過不足判断DIはマイナス35.6〔不足〕。

設備

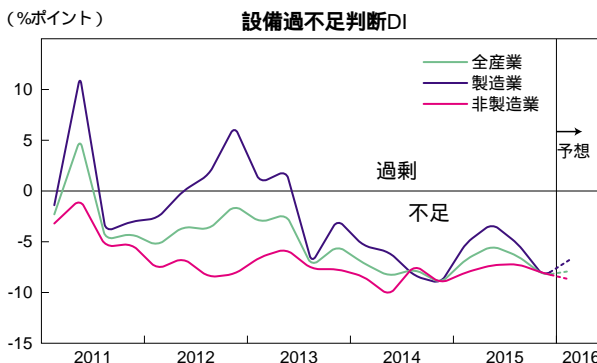
〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス8.3〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス7.9〔不足〕。

10～12月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は30.0%。（7～9月期は32.8%）

1～3月期に設備投資を計画している企業は27.1%。



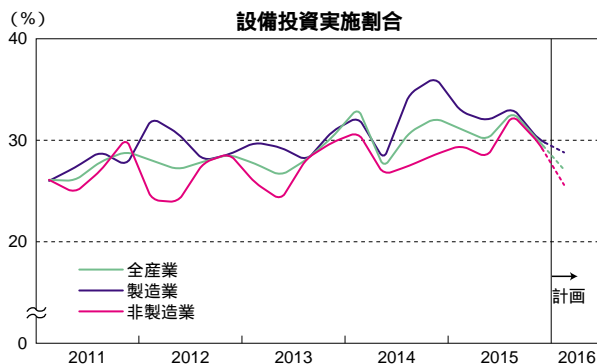
〔製造業〕

設備過不足判断DIはマイナス8.4〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス6.8〔不足〕。

10～12月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は30.1%。（7～9月期は33.2%）

- ・内訳は、「機械・設備の新增設」が50.9%、「機械・設備の更改」が33.6%、「車両」が20.9%、「事務機器」が15.5%などとなっている。



- ・ 設備投資の目的は、「能力増強」が39.1%、「老朽化に伴う更新」が35.5%、「合理化・省力化」が30.9%などとなった。

1～3月期に設備投資を計画している企業は28.8%。

〔非製造業〕

設備過不足判断DIはマイナス8.1〔不足〕。

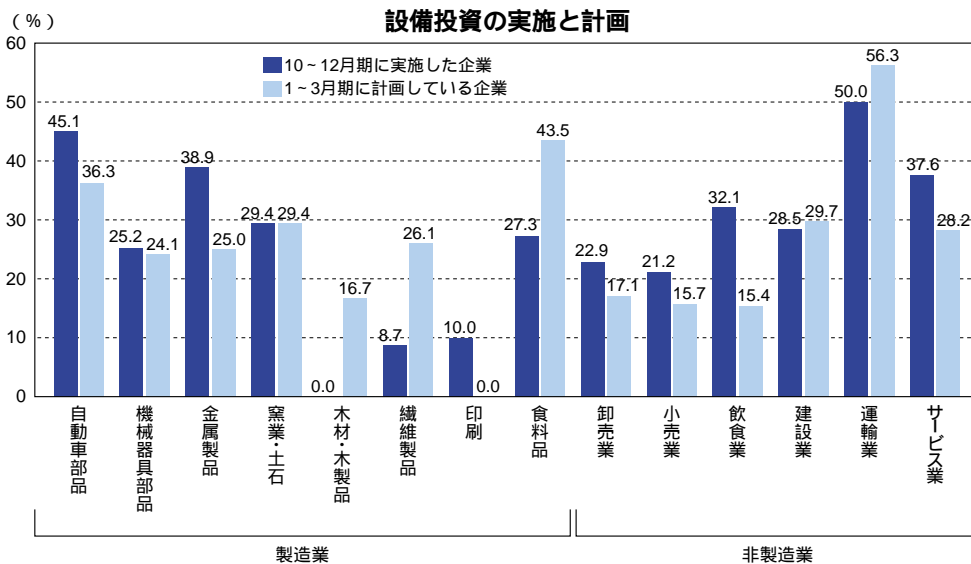
予想設備過不足判断DIはマイナス8.7〔不足〕。

10～12月期に設備投資(リース・レンタルを含む)を実施した企業は29.8%。(7～9月期は32.5%)

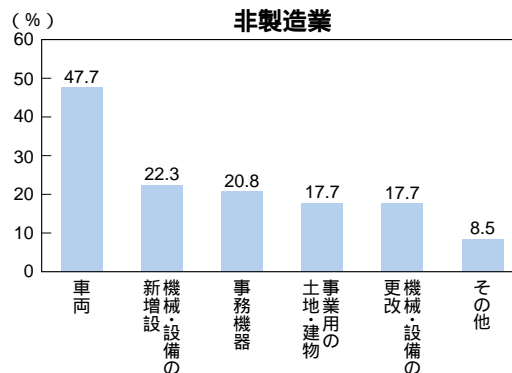
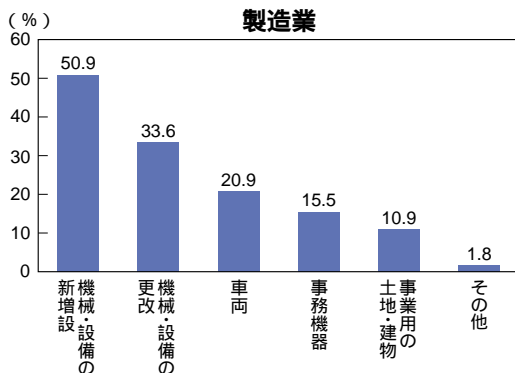
- ・ 内訳は、「車両」が47.7%、「機械・設備の新增設」が22.3%「事務機器」が20.8%などとなっている。

- ・ 設備投資の目的は、「老朽化に伴う更新」が48.5%、「販売拡大」が20.8%、「競争力の維持・強化」が18.5%、「合理化・省力化」が13.8%などとなった。

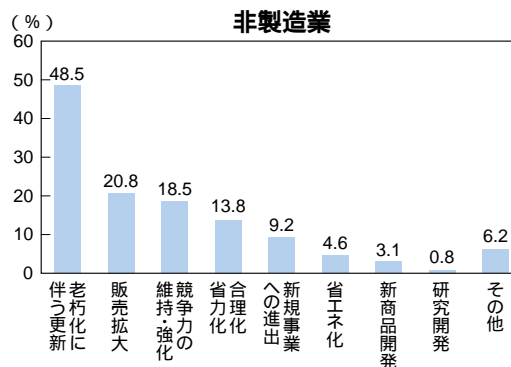
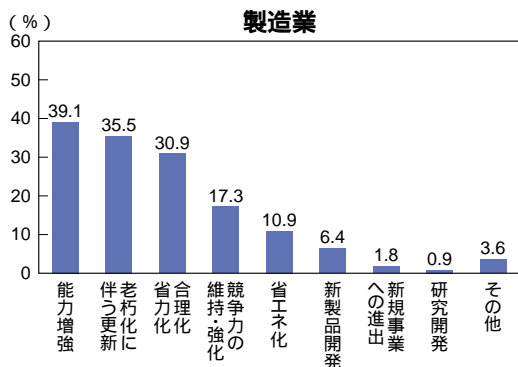
1～3月期に設備投資を計画している企業は25.6%。



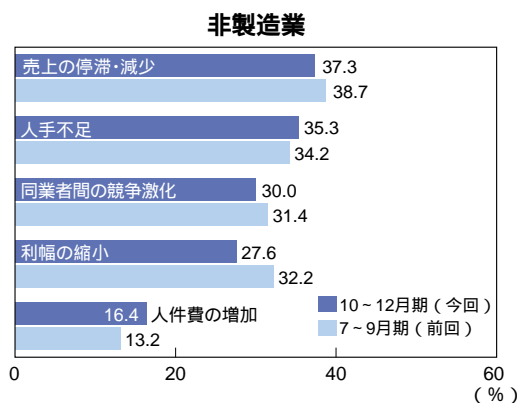
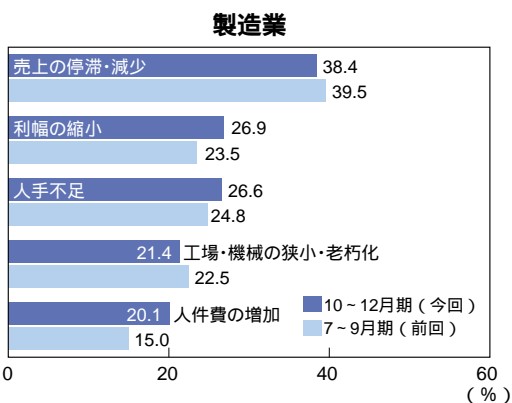
10～12月期の設備投資の内訳



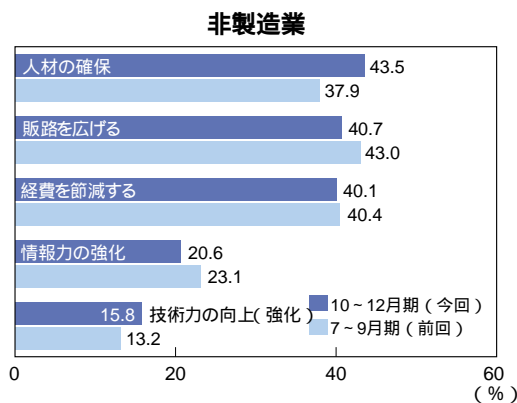
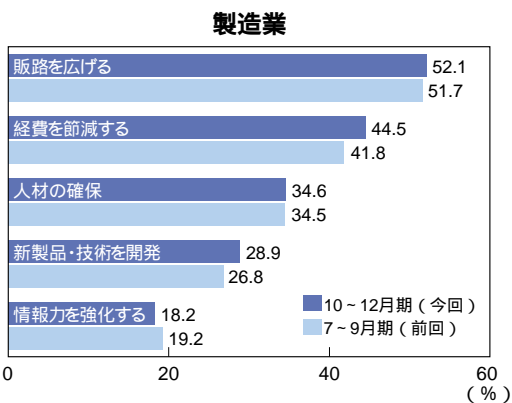
10～12月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策



10～12月期の景況 3四半期ぶりに景況感改善、減収減益は続く

1～3月期の予想 トヨタ増産でDI改善へ、残業時間増加の予想

10～12月期の景況

業況判断DIは 17.1となり、7～9月期（ 21.0）に比べ改善した。改善は3四半期ぶり。DIは依然マイナス領域にあるものの、やや持ち直しがみられた。

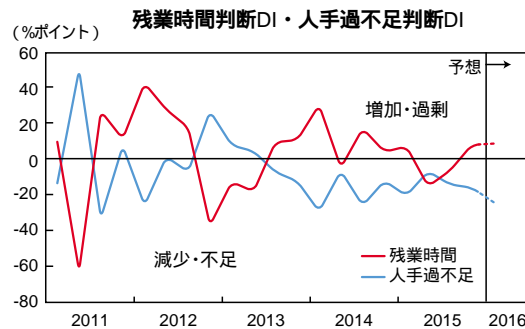
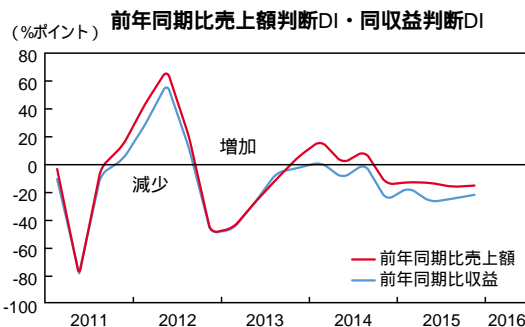
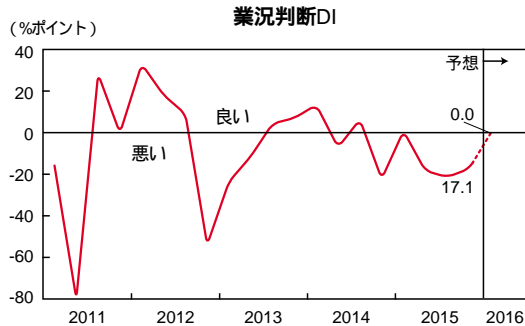
ただ、前年同期比売上額判断DI・同収益判断DIはマイナス（5四半期連続）。全体として減収減益が続いている。新車販売が冴えないのが主因。

なかには新型車や人気車種の受注が好調で、追い風になっている企業もある。残業時間と人手過不足の判断DIをみると、残業時間は増加領域に、人手は不足領域にあり、一部に繁忙感も出ているようである。

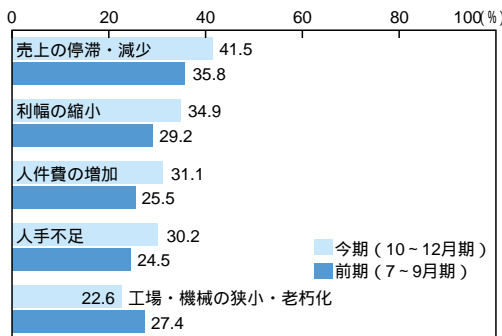
1～3月期の予想

予想業況判断DIは0.0。10～12月期に比べ改善する見通し。1月以降、トヨタ自動車国内生産の増産を計画しており、部品メーカーの業況も上向くとの見方が増えている。

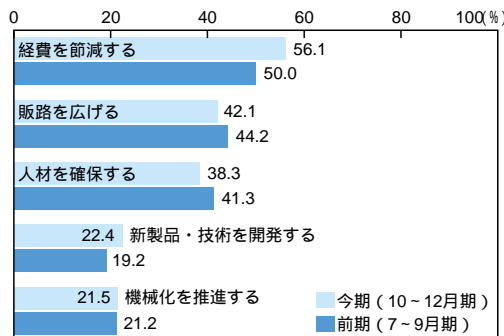
残業時間の増加と人手不足は続く見込み。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



10～12月期の景況 増収増益に終止符、外需の減少が影響か

1～3月期の予想 予想DIは悪化、先行き慎重な見方増える

■ 10～12月期の景況

業況判断DIは12.5。7～9月期（9.6）にくらべ改善した。改善は2四半期連続。DIのプラスが2年以上続いており、景況は比較的堅調に推移している。

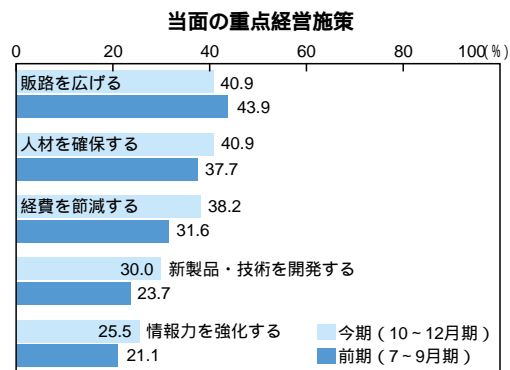
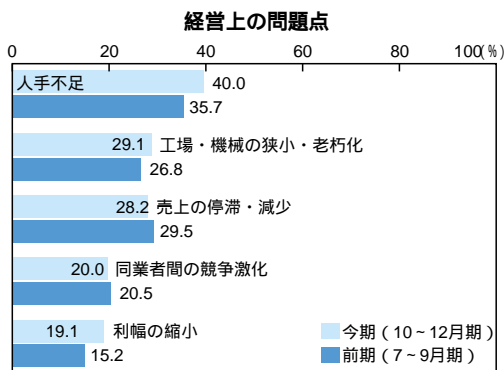
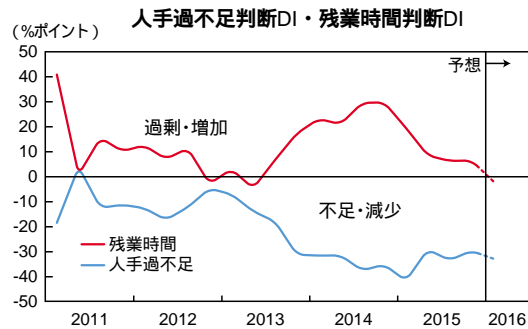
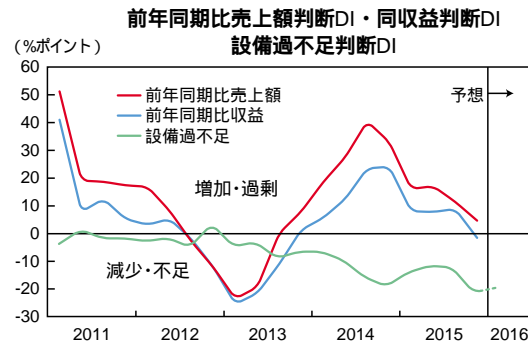
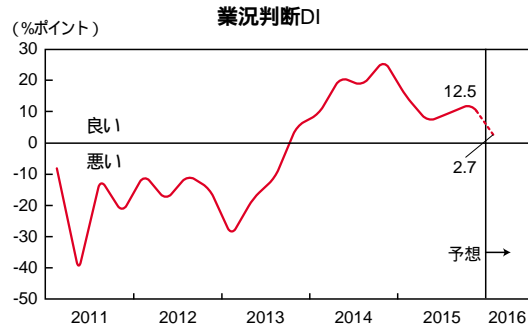
前年同期比売上額判断DIはプラス〔増加〕を維持。同収益判断DIは2年ぶりのマイナス〔減少〕。これまで続いた増収増益が途切れた。海外受注の減少がとくに影響したのではないかと。

このところ設備の不足感が少し目立つようになってきている。設備過不足判断DIは21.6〔不足〕。能力不足で納期に遅れたり、受注を逃したりするケースも出ている模様。

■ 1～3月期の予想

予想業況判断DIは2.7。国内の機械需要には一服感があり、海外需要も不透明。先行き慎重に構える企業が増えている。

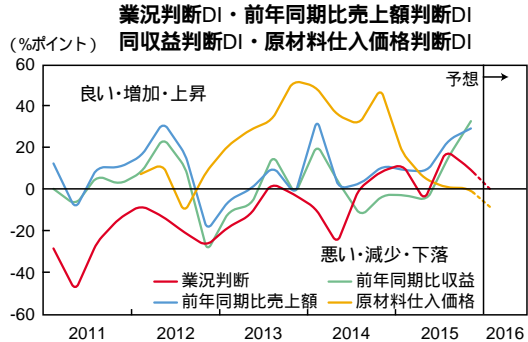
杭打ちデータ改竄問題に絡んで、この先マンションなどの建設が遅れた場合の悪影響を懸念する電気部品メーカーもあった。



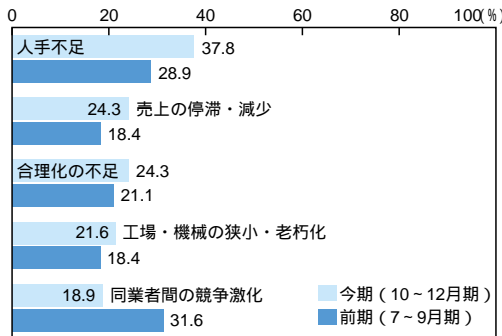
▶ 【金属製品】

業況判断DIは10.5。DIはプラスを維持し、景況は底堅く推移した。鋼材や非鉄金属の価格下落で原材料仕入価格が値下がり、収益向上に寄与した。前年同期比収益について、半数以上の企業が増加と回答。

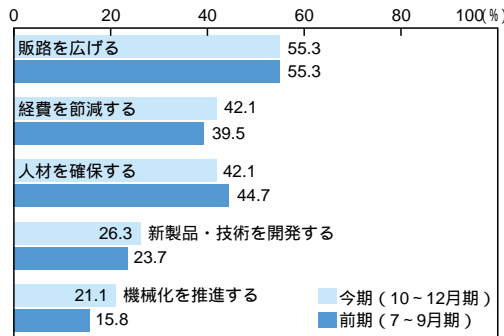
予想業況判断DIは0.0。悪化の予想。



経営上の問題点



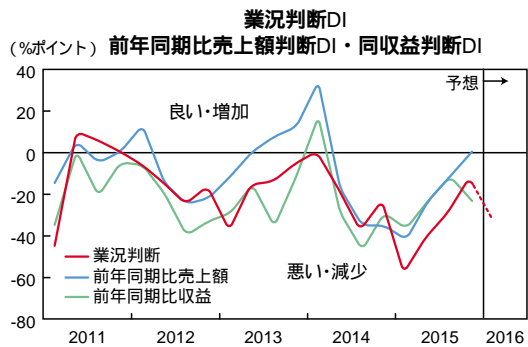
当面の重点経営施策



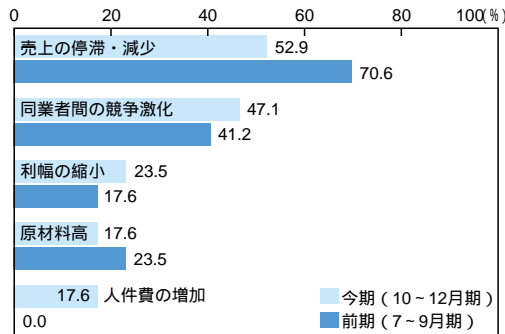
▶ 【窯業・土石】

業況判断DIは 12.5。7~9月期 (29.4) にくらべ改善した。改善は3四半期連続。前年同期比売上額判断DIは0.0、同収益判断DIは 23.6〔減少〕。売上の減少にはようやく歯止めが掛ったが、収益はまだ上向いていない。

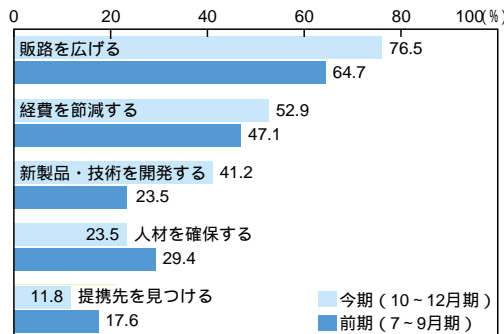
予想業況判断DIは 31.2と、悪化する見通し。



経営上の問題点



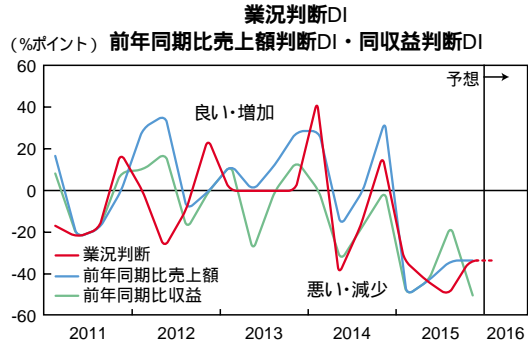
当面の重点経営施策



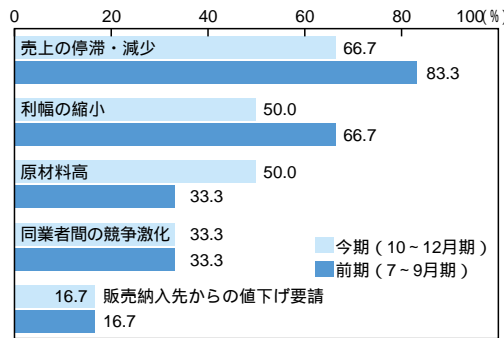
▶ 【木材・木製品】

業況判断DIは 33.3。7～9月期（ 50.0）
 にくらべ改善した形となったが、依然としてDIは水面下にあつて景況感は冴えない。足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIと同収益判断DIをみても、ともにマイナス〔減少〕領域を抜け出せていない。取り巻く環境が好転していないのが実状。

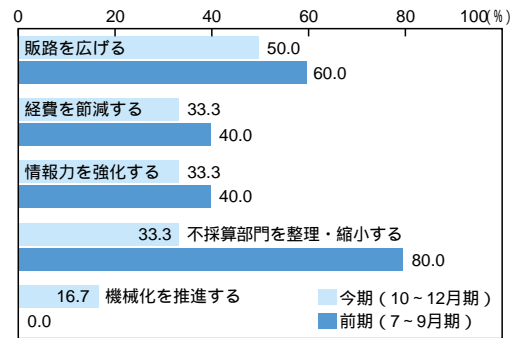
予想業況判断DIは 33.3。10～12月期と変わらず、横ばいで推移する見通し。



経営上の問題点



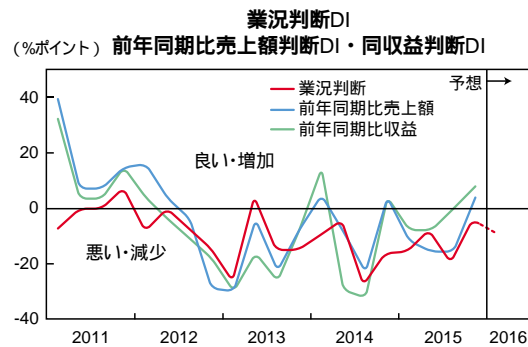
当面の重点経営施策



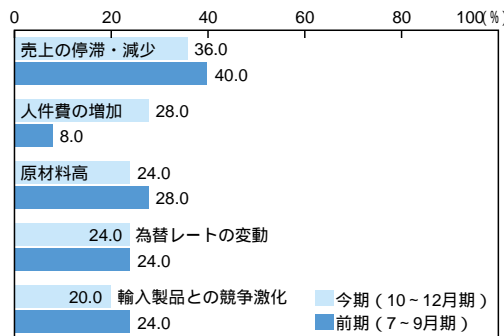
▶ 【繊維製品】

業況判断DIは 4.0と、7～9月期（ 19.3）
 にくらべ改善した。改善は2四半期ぶり。前年同期比売上額判断DI、同収益判断DIの両方がプラス〔増加〕に。増収増益は4四半期ぶり。人手不足感が広がりつつあり、問題点では「人件費の増加」を、経営施策では「人材の確保」をあげる企業が増えている。

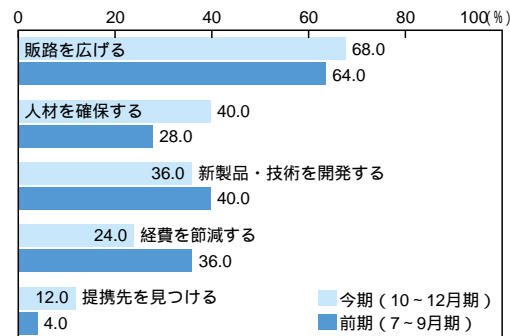
予想業況判断DIは 8.4。やや悪化の予想。



経営上の問題点



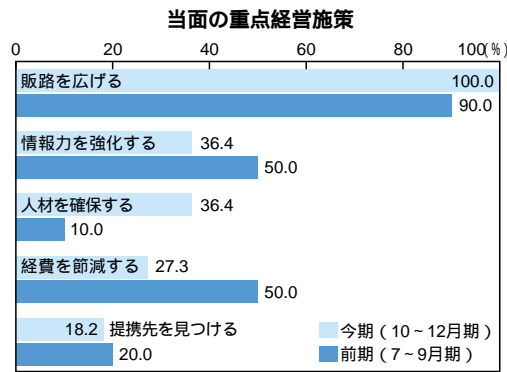
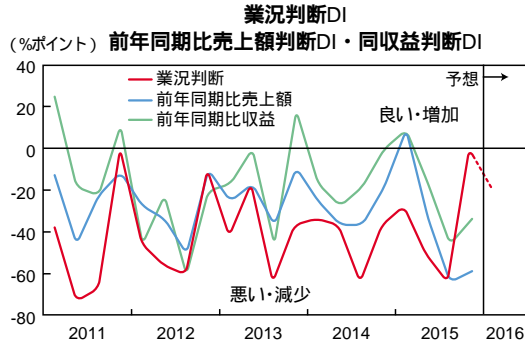
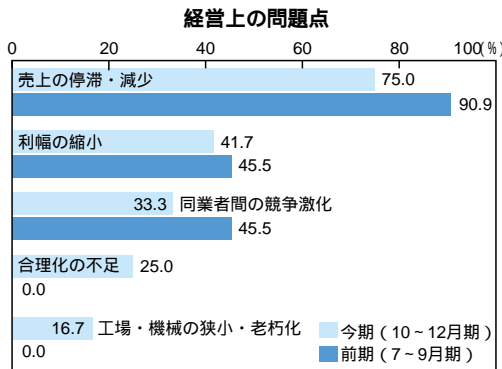
当面の重点経営施策



▶ 【印刷】

業況判断DIは0.0となった。DIがマイナスをまぬがれるのは2011年10～12月期以来4年ぶり。ただ、売上や収益については依然低調。前年同期比売上額判断DIは 58.4〔減少〕、同収益判断DIは 33.4〔減少〕となっている。資金繰りに窮屈感を訴える企業も増えつつある。経営環境は依然として厳しい状況。

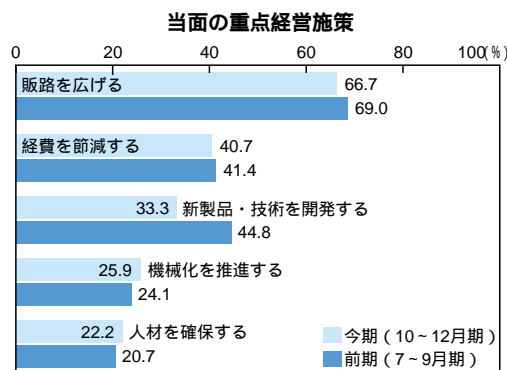
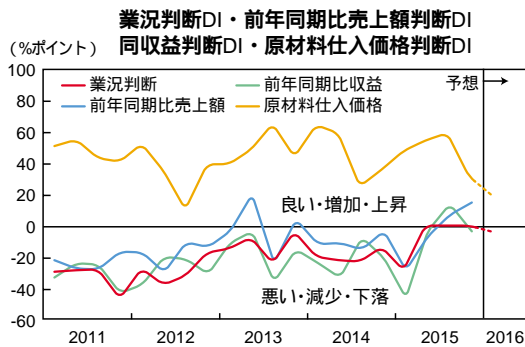
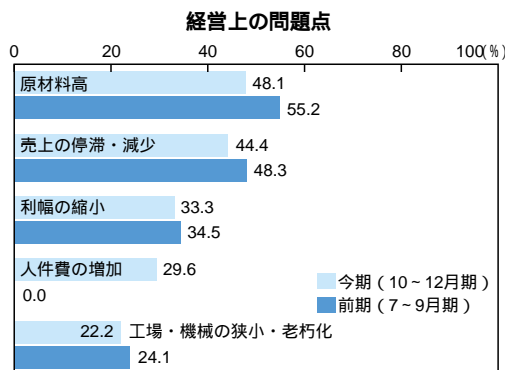
予想業況判断DIは 18.2。悪化の見通し。



▶ 【食品】

業況判断DIは3四半期連続で0.0となった。景況感は横ばいで推移している。総じて売上は増加傾向にあるが、それに見合った収益が伴っていないようである。原材料高が続いているのが主因。経営上の問題点には「原材料高」がトップ。「人件費の増加」を指摘する企業も急増している。

予想業況判断DIは 3.7と、やや悪化の予想。



10～12月期の景況 業況判断DI改善、売上・収益は横ばい

1～3月期の予想 機械器具は堅調を維持、建設資材はプラスへ

10～12月期の景況

業況判断DIは 4.1と、10～12月期（ 8.5）から改善した。建設資材卸、農畜産物・水産物卸が持ち直す一方、食料・飲料卸、機械器具卸が悪化。とくに食料・飲料卸は大幅に悪化した。

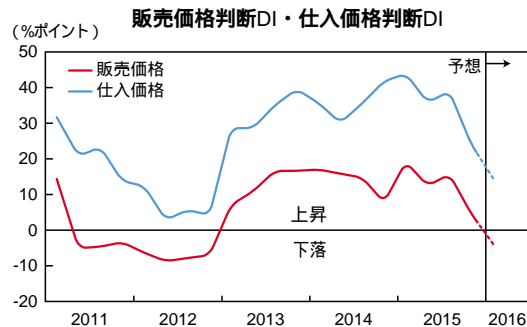
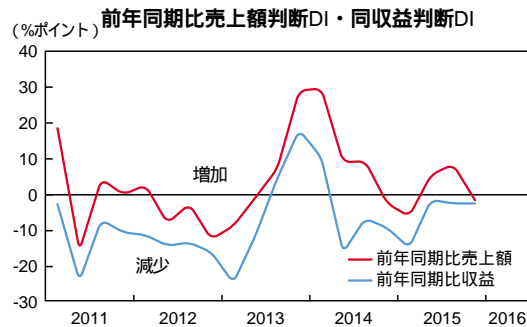
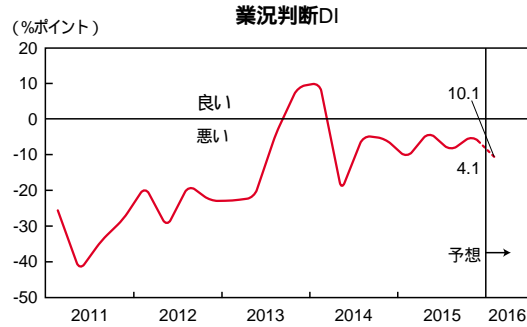
前年同期に比べた売上額・収益は、ほぼ横ばいとなっているが、仕入価格の値上がりに販売価格の値上げが追いついていない企業が少なくないとみられる。「頻繁に値上げ要請があるが、すべてのユーザーに転嫁できるわけではないので頭が痛い」と嘆く機械関連業者もみられた。

1～3月期の予想

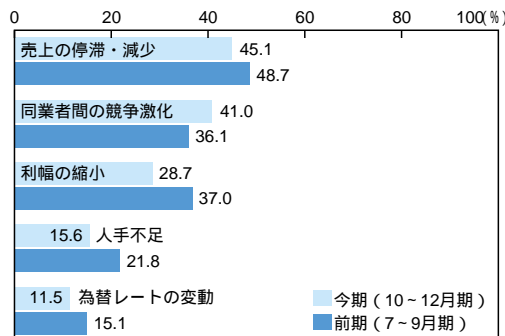
予想業況判断DIは 10.1と、10～12月期にくらべ悪化する見通し。機械器具卸は引き続き堅調を維持。建設資材卸はプラスに転じる予想。

販売価格判断DIをみると、3年ぶりに下落領域に転じる予想で、販売価格はやや弱含みそうだ。

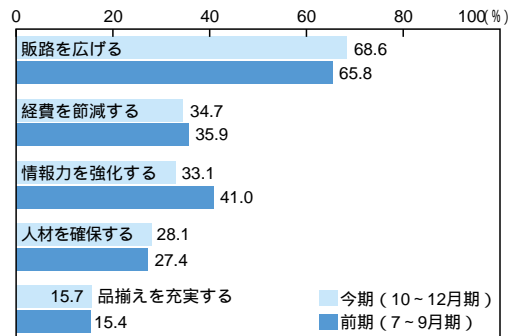
業況判断DI	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月 (予想)
農畜産物・水産物	16.6	19.1	10.5	36.8
食料・飲料	0.0	8.3	36.4	27.3
機械器具	43.4	32.0	21.4	14.3
建設資材	33.4	36.3	9.6	5.0



経営上の問題点



当面の重点経営施策



10～12月期の景況 4四半期ぶりに景況感が悪化、減収減益に

1～3月期の予想 予想DIは改善も、マイナス幅は縮まらず

▶ 10～12月期の景況

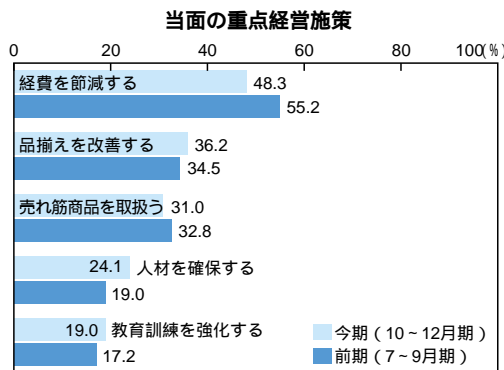
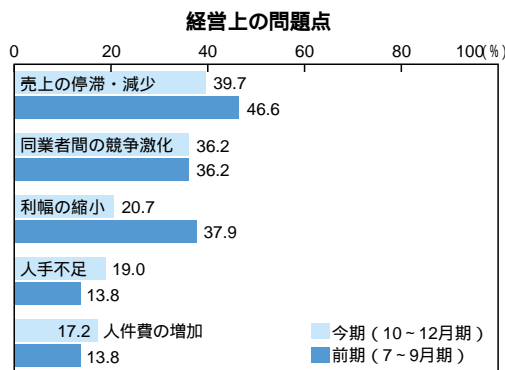
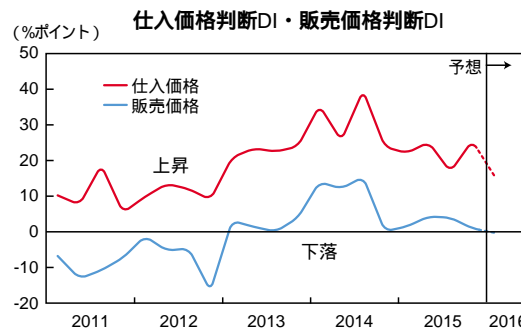
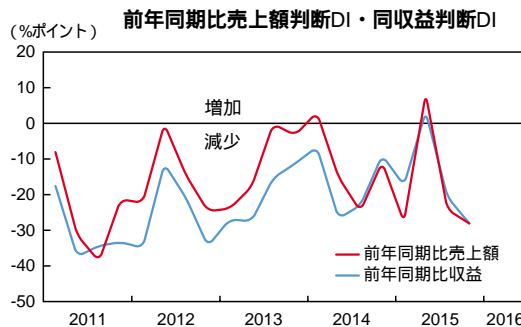
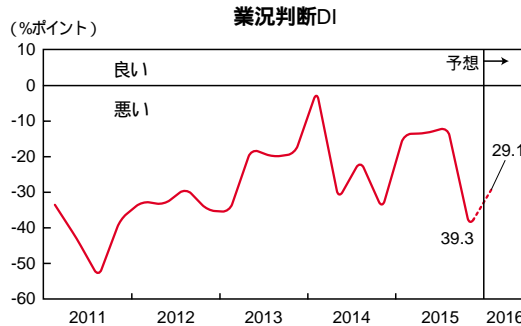
業況判断DIは 39.3となり、7～9月期（ 11.7）にくらべ悪化した。DIの悪化は4四半期ぶり。悪化幅の27.6は全業種中で最大。

10～11月の気温が例年よりも高かったことなどで売上が伸びず、また仕入価格の上昇が幅広い物品に広がったことが響いたとみられる。

前年同期比売上額判断DIは 27.6〔減少〕、同収益判断DIも 27.6〔減少〕。減収減益は2四半期連続。

▶ 1～3月期の予想

予想業況判断DIは 29.1と、10～12月にくらべ改善する見通しだが、DIのマイナス幅はそれほど縮まらず、冴えない状況が続きそうだ。



10～12月期の景況 マインドの持ち直し続く、残業時間は増える

1～3月期の予想 業況判断DI悪化へ、先行きに慎重な構え

10～12月期の景況

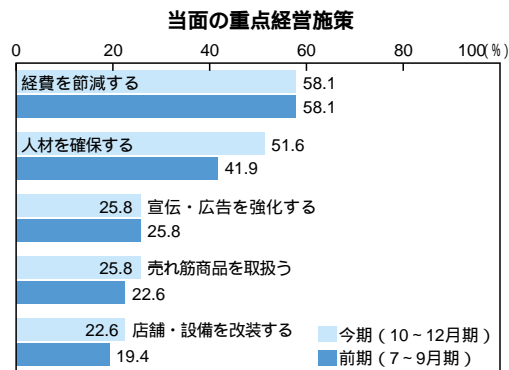
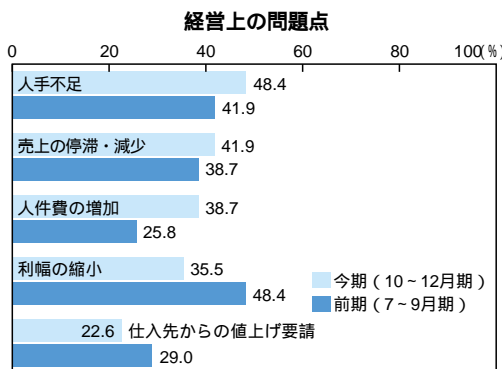
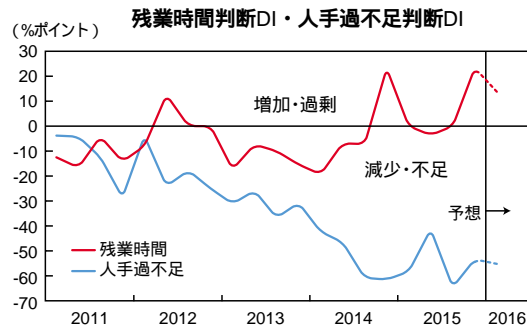
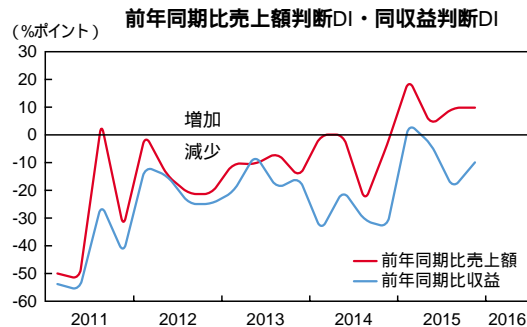
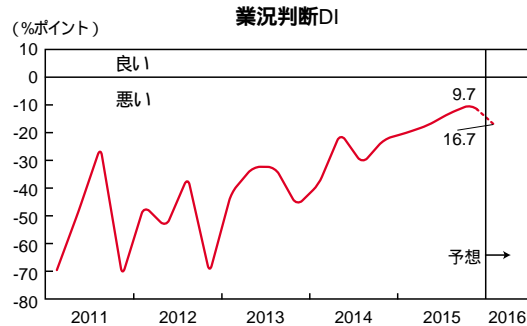
業況判断DIは 9.7。7～9月期（ 12.9 ）に比べ改善した。5四半期連続の改善。DIは依然マイナス領域にあるが、マインドは着実に持ち直しつつある。

前年同期比売上額判断DIは増加領域にあって、売上には増加傾向がみられる。ただ、収益は伸び悩んでおり、同収益判断DIは減少領域から抜け出せていない。食材価格の値上がりりが利益を圧迫する構図となっている。

人手不足の影響からか、ここに来て残業時間の増加が目立つ。残業時間判断DIは 23.3。経営上の問題点では「人件費の増加」をあげる企業が増えている。

1～3月期の予想

予想業況判断DIは 16.7。10～12月期に比べ悪化の見通し。先行き慎重な見方をする企業が少なくないようで、「景気が良いとは感じない。消費者の財布のひもが緩むのはもう少し先だろうか」という声もあった。



10～12月期の景況 12四半期連続のプラス、人手不足収まらず

1～3月期の予想 住宅建設業の景況感悪化、設備工事業は弱含みへ

10～12月期の景況

業況判断DIは21.0となり、7～9月期にくらべ改善した。DIのプラスは12四半期連続。前年同期と比べた売上額や収益も増加。

公共工事を主体とする企業の景況感が回復、設備工事を主体とする企業に堅調な業況推移がみられた。

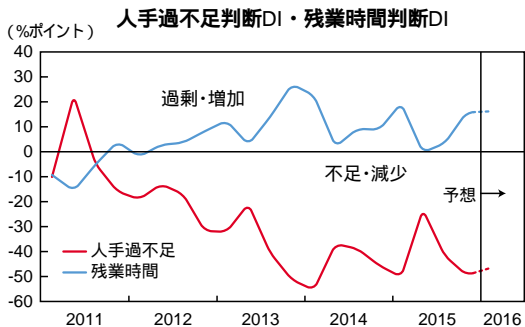
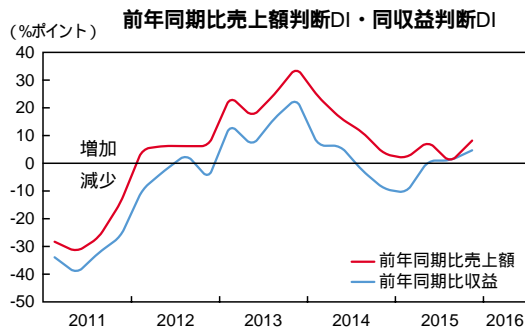
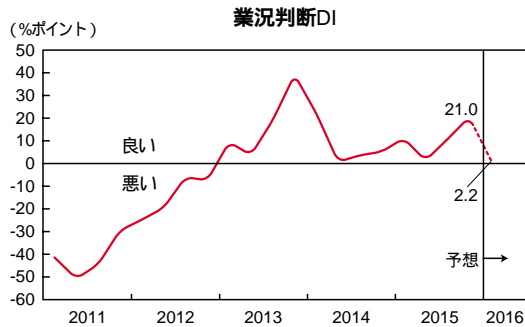
最大の課題は人手不足。過不足判断DIは48.9と、深い不足領域にあり、収まる気配がない。経営上の問題点では半数近くが「人手不足」をあげている。

1～3月期の予想

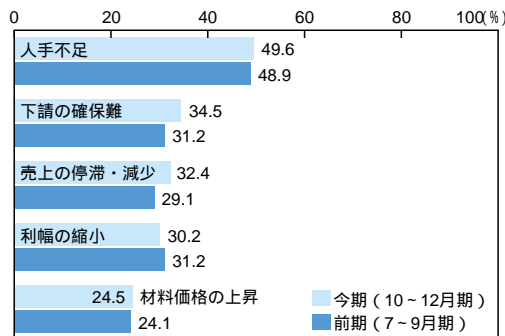
予想業況判断DIは2.2と、10～12月期にくらべ大幅な悪化が見込まれている。

消費増税の駆け込み需要の反動減から持ち直しつつあった住宅建設主体の企業のマインドが悪化するとともに、これまで堅調だった設備工事主体の企業の業況も弱含みそうだ。

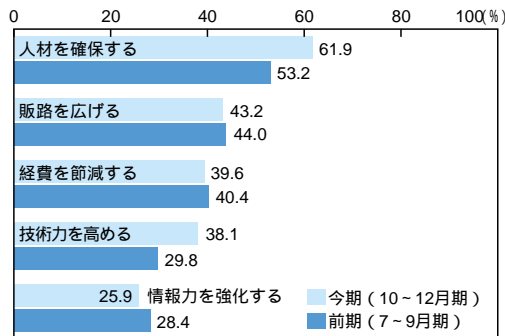
杭打ちデータの改竄問題の余波を懸念する声もあった。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



10～12月期の景況 景況感小幅悪化、物件の動きは地域間で温度差も

1～3月期の予想 マインド鈍化の予想、売上・収益は増加基調を維持

■ 10～12月期の景況

業況判断DIは18.4と、7～9月期（20.0）にくらべ小幅に悪化。DIの悪化は5四半期ぶりだが、比較的高い水準を維持した。前年同期比売上判断DI・同収益判断DIはともにプラス〔増加〕。在庫も減少傾向にあって、不動産需要は底堅いとみられる。

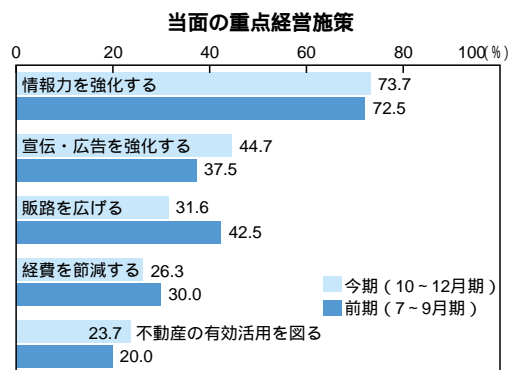
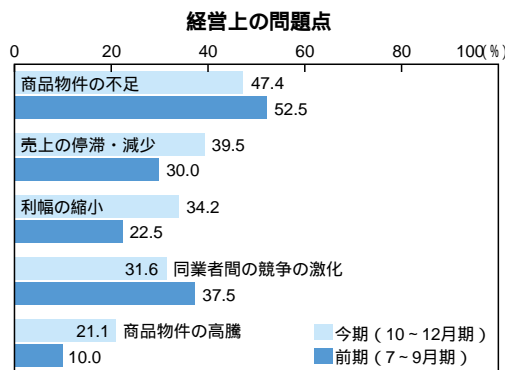
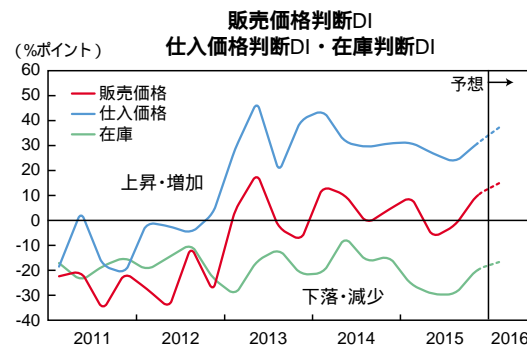
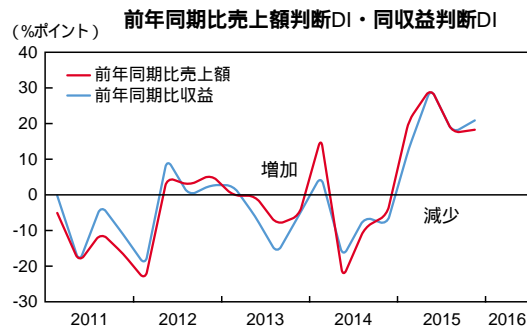
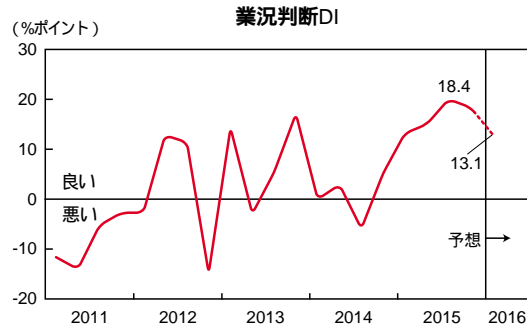
ただ、地域によって物件の動きに温度差がみられ、「土地の動きが鈍い。賃貸住宅に空きが多い」というところもある。

平成29年4月の消費税率の再引き上げをにらんだ需要が少しずつ出はじめているとの声もあった。

■ 1～3月期の予想

予想業況判断DIは13.1と、5.3ポイント低下。マインドは鈍化する格好となったが、売上や収益は引き続き増加基調を維持する見通しで、比較的堅調な業況推移がみられるのではないかと。

重点経営施策には「情報力の強化」がトップ。



10～12月期の景況 …… 2四半期連続でDI改善、深刻な人手不足は続く

1～3月期の予想 …… 予想判断はプラスを維持、設備には不足感も

▶ 10～12月期の景況

業況判断DIは17.1となり、7～9月期（11.4）に比べ改善した。改善は2四半期連続。景況の持ち直しが続いている。

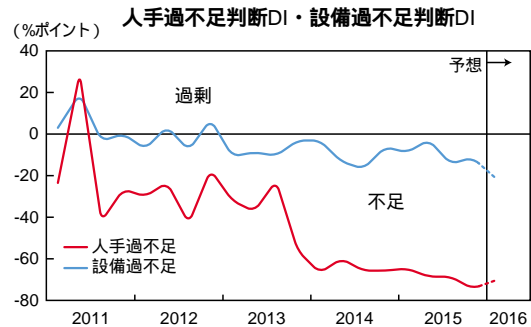
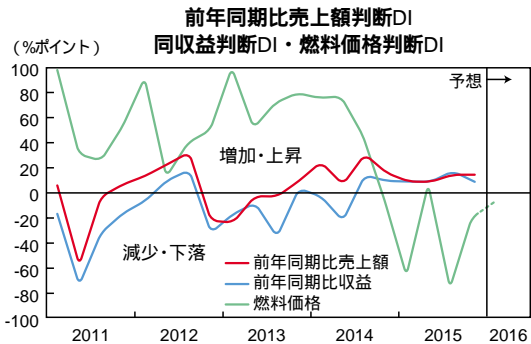
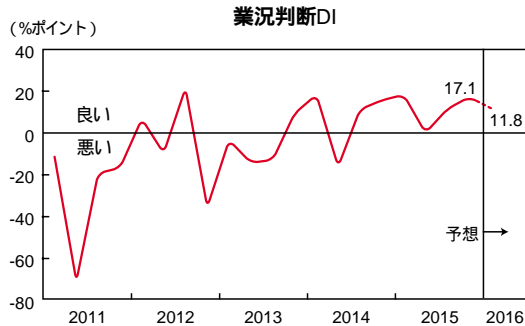
売上や収益も増加基調を維持。前年同季比売上額判断DIは14.3〔増加〕、同収益判断DIは8.6〔増加〕。自動車部品などの輸送が増えつつあることや、燃料価格の下落が寄与したとみられる。

人手不足は依然として深刻な状況。このなかで残業時間が増加、人件費も増えている。経営上の問題点に「人手不足」、重点経営施策に「人材の確保」をあげる企業が相変わらず多い。

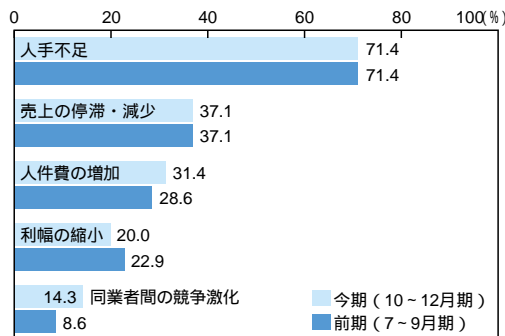
▶ 1～3月期の予想

予想業況判断DIは11.8と、10～12月期に比べ悪化する見通し。DIはプラスを維持するが、売上や収益には一部で弱い動きもみられそうだ。

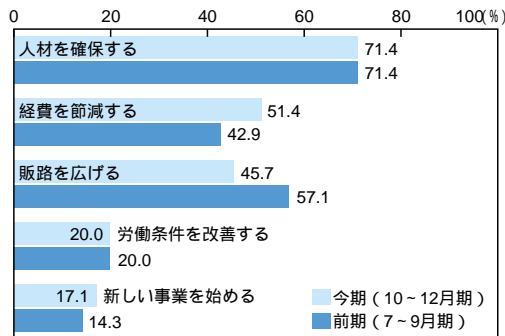
人手不足は解消されそうにない。設備には不足感がジワジワと広がりつつある。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



10～12月期の景況 景況感改善しプラスへ、人手不足感さらに広がる
 1～3月期の予想 予想DIはマイナス、先行きへの不安残す

10～12月期の景況

業況判断DIは15.1。7～9月期（8.2）に比べ大幅に改善し、プラスに浮上した。法人向けサービスも個人向けサービスも改善し、ともにプラスに。

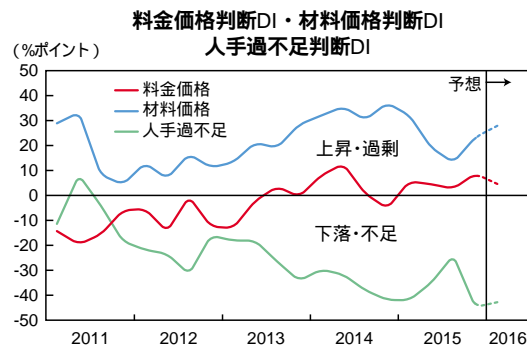
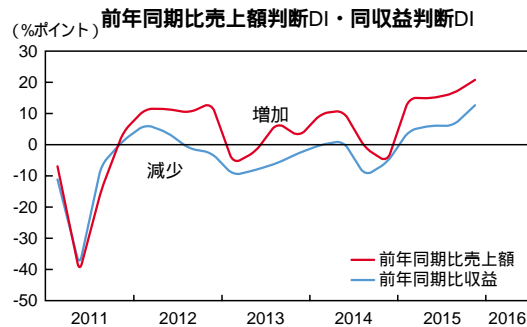
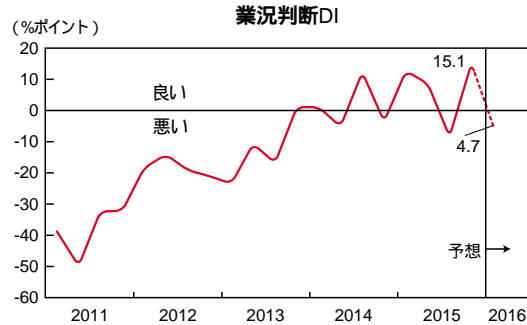
法人向けは設備機械の設計や修理・メンテナンスなどを行う企業の好調が目につく。個人向けのDIがプラスになるのは、法人・個人に分けて集計を始めた2012年10～12月期以来、はじめてのこと。全体として売上や収益が増加傾向にあり、悲観的な見方は減っている。

経営上の問題点では「売上の停滞・減少」がランクを下げ、代わって「人手不足」がトップに。人手不足が相当に広がっていることがうかがえる。人手過不足判断DI（44.7）は、1992年1～3月期以来の不足幅。

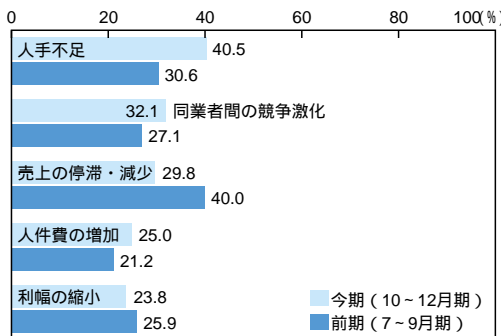
1～3月期の予想

予想業況判断DIは4.7と、再びマイナスに転じる見通し。先行きへ不安を残す結果となった。

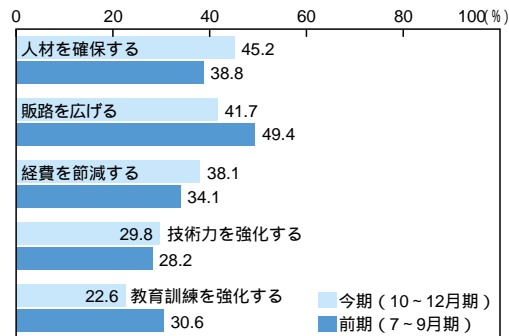
業況判断DI	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月（予想）
法人向けサービス	19.7	0.0	20.0	8.2
個人向けサービス	10.4	20.0	8.4	22.2



経営上の問題点



当面の重点経営施策



お客様から寄せられた声

* 景気動向調査表の通信欄に記載のあった意見をご紹介します。

製造業のお客様

杭打ちデータ改竄^{かいざん}問題が業界にどう影響するか。春以降の動向が気になる。マンションなどが建たなくなると、かなり厳しい状況になる可能性があると思う。(電気部品)

能力不足で納期に遅れることや受注機会を逃すことがある。(工業機械用機器)

インフラ関連の設備工事に好況感があまりない。民間企業の受注競争が水面下で厳しさを増している模様。工事の絶対量の減少、人手不足、管理者不足で地方の建設関連業者は難しい局面に立たされているのではないか。社会の構造変化が重くのしかかっている。(鉄線加工・溶接金網)

前期は中国経済の減速などの影響で取引先の計画が下方修正されたが、今期は上方修正されつつある。(自動車部品)

スーパーとの取引が増えたので、弁当事業が堅調。(豆腐)

新型車の発売を控え、業界が活気づいている。(自動車部品試作)

業務用厨房機器の大手メーカーや商社を中心に業界再編の動きが出てきている気がする。(殺菌庫、建築金物加工)

和食が世界遺産に登録され、日本酒にも光が差すようになった。(清酒醸造)

中国の景気停滞により、プラスチック再生素材の中国への流出が止まり、素材単価の上昇が抑えられている。(合成樹脂原料)

今期は車種にマイナーチェンジがあったため、事前の人員確保に苦慮。加えて、売上が減少するなかで人件費が増加し、経営の大変さを実感。(自動車部品)

鋼材の加工工程で発生する鉄屑の売価が安くなって、損失が出ている。(自動車部品)

ホンダが中国で生産していた部品が国内に戻ってきて受注が増えた。ただ、受注スパンの短縮で残業は増加している。(工業用パッキン)

中国向けの設備案件が減っている。今後の見通しは立っていない。(産業機械)

非鉄金属の価格が下落しているので、材料費が低減している。(アルミ合金鋳物)

円安のおかげで機械投資に廻せる資金ができた企業が増え、機械需要が拡大

している。一方でリーマンショック以後、機械メーカー自体が減っているため機械の供給力が細っている。需給バランスが崩れ、機械の値段も上がっているため、ユーザー企業は資金計画の大幅な見直しを迫られ、その対応に苦慮していると聞いている。(製缶・搬送機)

ここ数年、外部の評価(特許や補助金)が当社のブランド化を後押ししている。中小企業機構の仲介で、大手企業数社の役員に特許商品のプレゼンをする機会を得た。それで、すぐに話がまとまり、案件が進んでいる。今まで播いてきた種から芽が出はじめている。モノづくりのオンリーワン企業として、一つでもヒット製品を出して、若者にモ

ノづくりの楽しさや喜びを味わってもらいたい。ただ、案件が急に進んで、能力(人材)不足がネックとなり、違う悩みが生じている。人はすぐには育たない。課題も多い。(樹脂製品の金型)

輸出関連製品の売上げがやや回復してきた。(土木用シート・排水処理フィルター)

顧客の設備投資への意欲は高いが、受注量が生産能力を超える危険性もある。このことは同業他社との競争を生むことになり、ほぼ独占状態だった形態が崩れることになるかもしれない。(設備の製造・設置・メンテナンス)

卸売業のお客様

トヨタ自動車をはじめ、愛知県下の大手企業の業績アップにともない工事物件が増えている。(生コンクリート)

10~11月の気温が高く、冬物商戦が遅れた。(繊維原料輸出入)

フォルクスワーゲン社の排ガス不正問題が、どのように影響してくるかが心配。(精密機械器具部品)

メーカー各社から商品の値上げ要請が頻繁にある。転嫁できるユーザーとできないユーザーがあって頭が痛い。今後はそれほど値上げはないと予想しているが、年が明けてみないと判らないのが現状。(機械工具)

中国の景気が悪い。今後、どんな悪影響があるかが不安。(建材)

小売業・飲食業のお客様

大企業を中心に冬のボーナスが増えるとのことだが、これが消費に回ればありがたい。最近、グローバル化の悪い

面が表れているように感じる。パリ同時テロなどはマインドを悪化させる要因である。(洋菓子)

景気が良いとはあまり感じない。お客さまとの会話のなかで、「忙しい」とは聞くが、「儲かっている」とは聞かない。財布の紐が緩むのはもう少し先だろうか。(イタリア料理店)

仕入価格が上がっているにもかかわらず、販売価格に転嫁できない。納入先が価格変更を認めない。(米穀店)

社員の情報によれば、ワンコイン(500円)の商品やサービスは、気軽に購入・利用できると一般的には思われているが、最近の年金生活者のなかには、ワンコインですら大変貴重で、気軽に使えない人が増えている。そうだとすると、小売業の景気が良くなるとは思えない。(配置薬)

建設業・不動産業のお客様

杭打ちデータ改竄問題が、この先どうなるか。(総合建設)

職人の高齢化が深刻。(建設業)

消費税率が10パーセントに上がることをふまえ、お客さまが動き出した感じ。(一般建設)

2015年度はトヨタ自動車の設備投資の増加で業績が改善したが、16年度以降は少し落ち着く見通し。(配管設備業)

人手不足である。15年に設備投資をして作業の簡素化を図ったので、16年度からは増益になる。20年までは人材をどう確保するかが問題だ。(給排水管設備工事)

平成29年4月の消費増税を見越して、駆け込み需要が少しずつ出てきた。(不動産業)

相変わらず土地の動きが鈍い。安い土地しか売れない。賃貸物件にも空きが多い。(不動産業)

大府市内には市街化区域の物件が少な

く、宅地が売りに出されれば、すぐに適正価格で契約が成立する。農地については、低価格でも買い手がつかない。(不動産業)

下請け企業への外注単価が上昇している。(土木建設)

2020年に省エネルギー基準が義務化されるため、ハウスメーカーやビルダーなどとの競争が激しくなっている。(建設工事)

業界内で倒産や廃業、業種転換が増えている。通信工事だけでは生き残れない。(電気通信工事)

パソコンやスマートフォンを利用した要求事項が増えている。モバイル営業の強化が最優先課題である。(建売住宅販売・不動産仲介)

運輸業・サービス業のお客様

人材確保のための人件費（ボーナス）が増加。（自動車の輸送）

燃料価格が落ち着いたため、経費が抑えられた。人手不足は続いており、採用活動に金と時間がかかる。（一般貨物運送）

タクシー業界は未だに不況。人材不足で前年同月比の売上は毎月減少している。競争も激しい。今期、三河部では値上げを申請しているが、認可の時期は定かではない。その値上げと29年4月の消費増税で、先行きどうなるか。非常に気がかりなところだ。（タクシー）

軽油価格の下落で収益が増加。今後の

原油価格の動向についての情報がほしい。（一般貨物運送）

大病院志向、競合医院の地元進出。今後の見通しは良くないが、規模を縮小して持ちこたえるつもり。（産婦人科）

環境政策に翻弄されている。今年、排ガス4次規制があり、2～3年後に5次規制がある。業界の販売戦略を注視。（重機）